

平成20年度 佐賀県立佐賀西高等学校 学校評価結果

<p>1 学校教育目標</p> <p>創立以来132年にわたる歴史を有する本校の校是である「質実剛健」、「鍛身養志」のもと、生徒一人一人が教職員並びに生徒相互間に敬愛と信頼を中心とした好ましい人間関係を築き、「熱き心(若々しい情熱)」、「寛き心(思いやりの心)」、「毅き心(チャレンジ精神)」を醸成し、忠恕の心を忘れず己の可能性に挑戦することで、高い知性と広い視野を持ち、次代の日本・世界をリードする人材育成を目指す。</p>

<p>2 学校経営ビジョン</p> <p>県下第一の伝統と実績を誇る学校として、生徒・保護者・県民の期待に応え得る学校づくりを目指す。 学業面では全国レベルを視野におき、部活動でも県下の上位を目指すなど、学業と部活動の双方に優れた学校づくりを目指す。 豊かな人間性を構築するために、西高生としての品位と品格を涵養できる豊かな教育環境を持った学校づくりを目指す。</p>
--

<p>3 本年度の重点目標</p> <p>6万余の卒業生によって築かれた歴史と伝統を継承し「学力向上」、「豊かな人間性の構築」を第一義とし、忠恕の心を忘れず、己の可能性に挑戦する佐賀西高等学校を育成するため、特に次の4点に力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる学力向上と高いレベルの進路保障 ・PDCAサイクルによる自己向上力の育成 ・基本的生活習慣の確立と豊かな心を育むための気持ちのよい挨拶の励行 ・メリハリのある文武両道の実践 	<p>4 前年度の成果と課題</p> <p>進路保障については、5年連続して高いレベルの進学実績を達成することができた。このレベルの実績に満足することなく、さらに高い目標を設定して、教科指導、進路指導、生徒指導を柱とした指導システムを構築することを目指している。また、部活動においても限られた時間で効率の良い練習を心懸け、高いレベルの文武両道を実践できた。</p> <p>さらに、前年度同様、教育方針や教育活動、大学進学や部活動の実績を広報していくことにも力を注ぎたいと考える。</p>
---	---

5 総括表					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標		評価及びその理由
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を周知させることができたか。 ・本年度の重点目標への取組みを生徒・保護者が高く評価したか。	・重点目標を知っている保護者の割合を100%にする。 ・重点目標の取組について、「非常によい」、「よい」と思う生徒・保護者の割合を80%以上とする。	A	・保護者による学校評価アンケートには、90%以上回答していただき、回答いただいた保護者は100%重点目標を理解してもらっていた。 ・重点目標の取組については、「非常によい」と「よい」が保護者87%、生徒80%と目標の達成ができた。
	広報活動	・保護者への情報提供は十分にできたか。 ・中学生への情報提供は十分にできたか。	・学校の諸活動、諸行事についての情報を保護者に適切に伝える。 ・西高の魅力をより具体的に、中学生に伝える。	A	・体験入学はアンケート結果から判断しても、まずまず成功だったといえる。 ・本年度の入試選抜は志願者438名(倍率1.37)であり、本校の魅力が十分に中学生に伝わっている結果と考える。
	学校事務	・学校管理運営費を教育水準を落とすことなく、節約できたか。	・学校管理運営費は対前年度比13.5%減、限られた予算の中で無駄をなくし効率的な予算運営に取り組む。	B	・光熱費を中心に、職員、生徒の協力を得て、無駄をなくし効率的な予算運営に努めた。 ・教室棟トイレに設置した「音姫」は、節水効果が高く、水道使用量が対前年比86.9%となった。
	職員の指導力向上	・難関大入試の各教科の特徴を把握し、それを活かすことができたか。 ・生徒が目指す大学に関する情報を把握できたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。	・難関大への教科指導が的確にできるまで職員の指導力を高める。 ・生徒が目指す各大学の入試システム及び入試問題に全職員が一定の知識を有するようにする。 ・生徒が充実感を味わえる授業を行い、授業満足度調査では満足度を90%以上にする。	A	・進路指導部の強力なリーダーシップで、難関大学入試研究と発表会、西高模試の取り組みなど、全職員で指導力向上の取り組みが実践された。 ・授業満足度調査については、一・二学期とも94%の生徒が満足していると回答し、目標以上の達成ができた。「分かる授業」、「質の高い授業」が実践されている結果と判断できる。
教育活動	学力向上	・出口を見据えた学力の向上が計れたか。	・国公立大二次試験、難関私立大入試に対応できる学力をつける。	B	・二次試験の配点比率の高い国立難関大学の合格実績が伸びていることは、出口を見据えた教科指導が効果を上げている結果と判断できる。
	進路指導	・生徒個人がより高い進路目標を掲げ、その実現のための大学進学を果たすことができたか。	・東京大5名、九州大40名の現役合格を目指す。 ・1・2年生東京大40名、九州大160名の志望を確保する。	B	・九州大の合格者数はほぼ目標を達成できたが、東京大は達成できなかった。 ・東京大、九州大の志望者は増加しているが、まだ目標には届いていない。
	家庭学習	・家庭学習時間を十分に確保できたか。 ・家庭学習時間に教科の偏りはなかったか。	・1日3時間の家庭学習を目指す。 ・不得意教科の得点率を着実に向上させる。	C	・家庭学習時間は、例年と比較して顕著な伸びがなかった。 ・学習意欲高め、自主的に学習する態度を育成しなければならない。

	心の教育	・基本的な生活習慣を身につけさせることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 ・生命尊重の意識を高めることができたか。	・西高生としての品格ある態度を身につけさせる。 ・自転車マナーの理解・徹底をさせ、加害事故0を目指す。 ・自他の生命を尊重し、いじめのない生き生きとした学校生活を実現する。	B	・生徒、保護者は、昨年より頭髪・服装は良くなったと評価している。 ・一学期1年生に自転車の事故が多発し、臨時の交通指導も行った結果、二学期以降はかなり改善された。 ・生命尊重に関する講演は、年度当初実施し、いじめのない学校生活が送れている。
	環境美化	・教室が学習環境として整備されているか。 ・ゴミの分別、減量化ができたか。	・各教室が常時整理整頓され、清掃の行き届いた状態にする。 ・環境美化に関する意識を高める。	B	・ポスターを作成し掲示したことで、生徒の環境美化に対する意識が高まった。 ・リサイクルボックスの活用により、ゴミの量は昨年度より、300袋(90リットル用)以上減らすことができた。
	読書指導	・生徒の読書活動や調べ学習の場としての機能を図書館が十分に果たしているか。 ・良書に親しみ、読書を通して思索を深めたり感性を豊かにしようとする態度を育成できたか。 ・朝の10分読書が充実したものになっているか。	・生徒一人当たりの年間平均貸出冊数を3.0冊以上を目指す。 ・読書感想文コンクールの県審査において、6名以上の入賞者を目指す。 ・全生徒が主体性をもって集中して読書ができる環境をつくる。	B	・クラスへの移動図書などの新しい取り組みによって、生徒一人当たりの貸出冊数は昨年度より増加したがね目標には達していない。 ・読書感想文コンクールは県審査4名入賞で、目標の6名以上には届かなかった。 ・朝の10分読書の取り組みは、生徒間では良くなったと評価している。
	健康・体づくり	・心身共に健康な生活が実現できるための指導、支援ができたか。 ・保健室利用者が教室に復帰できたか。	・生徒自ら心身の健康状態を把握するとともに、予防や食育についての指導を行う。 ・利用者数を減らすとともに早期に教室に戻れるように指導する。	A	・集団・個別の保健指導を「保健だより」と相乗して行った。特に、重点をおいた視力については、B以上の生徒が94.8%になった。 ・健康に対する自己管理の意識を高めることにより、欠席(昨年比80%)や保健室来室者の減少が見られた。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・本人、保護者、担任と連携し、生徒の実情に合った指導ができたか。	・登校状況を、家庭から保健室へ、保健室から教室へ、と段階的に前進させる。	B	・スクールアドバイザー、担任、保健室の連携により、問題を抱えた生徒の早期発見や早期対応に努め、長欠者は減少している。
	内規等の検討	・内規や規約等が、現在の教育活動に則したものになっているか。	・各分掌や各係で一学期までに見直しを行う。	A	・年度内には、十分な検討を行い、現在の教育活動に則した内規集が完成した。

6 総合評価

本年度の卒業生は、本校入学時に周りの環境が大きく変化した学年であり、今まで以上に危機感をもってこれまで教育活動を行ってきた。学年、進路を中心に、学力の動向を的確に把握し、早め早めの対応を行ってきた学年である。そのことは、東京大学2名、京都大学3名、大阪大学2名、国立大医学部6名、九州大学39名という、まったくこれまでの卒業生に引けを取らない受験結果にも表れた。また、部活動においては、体育部で空手道部、文化部で合唱部、吹奏楽部、写真部等が全国や九州大会に出場したことは、本校の伝統的校風である文武両道を高いレベルで実践した結果であるといえよう。

このような本校の教育活動については、「ホームページ」や「学校だより」等で保護者や生徒だけではなく、県下の中学生にも広く広報することができた。この成果は、今年の本校志願者の増加や特徴として隣接学区からの生徒が増えていることなどにあげられる。さらに、今年度の重点目標についての本校の取り組みや熱意、意欲を、「非常によい」「よい」と評価すると保護者の方は87%に達したのも、広報活動の充実として捉えることができる。

より高きに挑戦する気概を持ち心身共に健全なたくましい生徒を育成するとともに、最終的には「来て良かった」「預けて良かった」と思われる学校でありたいと考えている。生徒、保護者のアンケートでは、「非常に良かった」「よかった」と評価した保護者、生徒とも76%で昨年より高い値となった。また、生徒の授業満足度調査では、「やや満足」と「満足」をあわせると94%を占め、昨年に引き続き非常に高い評価を受けていることは、生徒が望む「分かる授業」、「質の高い授業」が実践されている結果と判断できる。

7 来年度の改善策

(1)本校は、次年度も第一の重点目標である学力向上と、それに伴う進路保障に最大のエネルギーをかける。

そのため次のような方向性をもって今後さらに創意工夫を重ねていく方針である。

志望校別クラス編成を最大限に生かすため、学年指導、担任指導、教科指導のあり方をそれぞれ再点検し、より効果を高めるためにはどうしたらよいか、生徒の意欲をより高めるためにはどうしたらよいかという観点から一層の共通理解を図って行く。また、本校の進学実績や取り組みを今後も幅広く広報して、魅力のある学校として目的意識の高い生徒の入学にも力を入れていきたいと考える。

(2)本校生は、将来いろいろな分野でリーダーとして活躍することが期待される。そういう人材を育成するために勉学だけに偏らない幅広くまた骨太の人格形成を目指している。そのための方策として部活動の奨励はもちろんのこと、生活指導、読書指導、保健指導、環境美化指導等、以下の点にも力を入れていく。

・PDCAサイクルによる自己向上力を育成する。

・文武両道を推進するために、メリハリのある学校運営を行い、下校時間を遵守し、家庭学習時間を確保させる。

・自他の生命尊重教育も視野に入れ、交通マナーの向上指導を含め、保護者との協力態勢を構築していくことを目指す。

・食育の面からの指導も図り、日常の体調管理、規則的な生活習慣の定着、部活動の休養日設定なども考慮し、遅刻・欠席の数を減らす。

・生徒の環境美化に対する意識を高めながら、ゴミの分別指導、節水節電の指導なども検討して、校内の隅々の美化と環境教育の徹底を目指す。

・各種行事の精査と精選を行い、授業時間の確保に努める。